

瀬戸歳時記による陶磁器デザイン

矢野 強*¹ 長谷川恵子*¹ 生浦京子*¹

Design of Tableware for the Seasons of Seto

Tsuyoshi YANO, Keiko HASEGAWA and Kyoko IKUURA

Seto Ceramic Research Center, AITEC*¹

2005 年に開催される国際博覧会に向けて、瀬戸産地の陶磁器のイメージ向上と新製品開発を目的にデザインを行った。日常生活用品があふれると言われる中で、特徴のある製品が求められている。

今回は、食器の中に四季折々の歳時記を取込み、祭事などの特別な日を楽しむ食器として、弁当箱をテーマに取り上げた。形状は楕円形、亀甲形、まゆ形、扇形の弁当箱を基本に箸置と茶器を組み合わせセットにした。表面模様とノベルティ感覚の箸置により、歳時記の雰囲気を作り出した。

また、製造技術面からは、白磁素地を使用して瀬戸地域の得意とする圧力鋳込成形と排泥鋳込成形を用いて産地特性を生かした商品開発を行った。

1. はじめに

2005 年に開催される日本国際博覧会に向けて、「せともの」や瀬戸産地独自のイメージづくりが課題となっている。当センターでは平成 10 年から 3 年間経常研究として「EXPO 関連グッズのデザイン開発」を行い、国際博覧会に向けて製品提案を行ってきた。その内容はお土産や記念品として持ち帰ることを前提とした、小型のインテリア用品やアクセサリなど、ノベルティを中心としたデザイン提案であった。本研究では新たに食の分野に焦点を当て、瀬戸の豊かな自然や草花などの歳時記（季節）を織り込んだ、飲食器の開発を目標にして、弁当箱を主体に箸置や茶器などオリジナルな陶磁器デザインの開発を行った。

また、製造技術的な面から、他産地との差別化を図るため、瀬戸産地が得意とする鋳込成形技術をデザインの中に生かし、成形技術とデザインが一体化した製品開発を行い、産地イメージの確立を図った。

2. デザイン

2.1 「瀬戸歳時記」の背景

季節の行事、習慣、言葉、自然現象、動植物などで構成される歳時記は、季節を感じ、それを表現する日本人の感性であり、四季のある風土があればこそその文化である。現在の都会では、季節の自然や動植物などの歳時記は、実生活から感じたいが、里山に囲まれた本地域で

はそれらが実感できる環境が残っている。周りの野山には、シデコブシ、ハルリンドウ、山桜、タンポポ、スミレが咲き、沢ガニやハッチョウトンボ、ホタル等を身近に見ることができる。

2.2 デザイン意図

モノがあり余っているといわれて久しく、各家庭では陶磁器製品も例外ではない。高機能性商品、高感性商品、特徴あるもの、季節商品、低価格商品など、目的ごとに細分化し、特化したモノが求められている現状がある。今回取り上げた弁当箱は、幼稚園から始まり高齢者に至る長い人生の中で、常に何らかの形で登場する。運動会や花見、旅行中の駅弁、割烹料理店のわりご弁当、コンビニ店で買うパック詰め弁当など、使用する時と場所により様々のものがある。いずれの弁当も蓋を開けるときの期待感やときめきはだれもが持っている。

この期待感を家庭内の晴れの行事に取り入れるため、陶磁器製弁当箱にすることで高級感をだし、非日常性を演出し、家庭内で楽しみながら団欒がもてる弁当箱をデザインした。

2.3 デザイン開発（開発アイテムとデザイン）

弁当箱を主食器にして箸置、茶器を組み合わせ、瀬戸の歳時記や季節の風情にあったセットになるように開発アイテムを計画した。弁当箱自体の形状は目新しさや奇

* 1 瀬戸窯業技術センター 応用技術室

抜さを避け、日頃見慣れた亀甲形や扇子形、まゆ形、わっぱ形など日本的な形状にした。弁当箱の表面模様や箸置の中に季節を感じる草花を描き歳時記としてデザインした。また、製造技術面から産地特性や他産地との差別化を図るため、本産地の得意とする鑄込成形技術を取り入れ、ロクロ成形では、成形が不可能な形状にデザインした。

3. 試 作

3.1 アイテム

アイデアスケッチから、形状デザインとして ワッパ形、まゆ形、亀甲形、扇子形の四種類の弁当箱と四種類の茶器（二種のボディに蔓型とハンドル型の取っ手を付ける）。また、朝顔、サヤエンドウ、鰻、鯉のぼり、扇子形、亀甲形、してこぶしの8種類の箸置を試作した。弁当箱の表面模様として春の花草にタンポポ、シデコブシ、夏の草花として菖蒲（兜）、朝顔、露草をデザインして季節感を表現した。

3.2 素地及び成形・焼成

市販の白磁素地を使用して、圧力鑄込成形と排泥鑄込成形、たたら成形により製作した。焼成は15kW電気炉で900で素焼をした後、1280で本焼成した(酸化)。表1 試作データ

品名	素地	成形方法	焼成温度	絵付方法
弁当箱本体	白磁	圧力鑄込	1280	上絵付
弁当箱蓋	"	"	"	"
木製蓋	木	糸鋸	-	漆塗り
うなぎ箸置	白磁	排泥鑄込	1275	下絵
朝顔箸置	"	"	"	液体顔料
鯉のぼり箸置	"	"	"	下絵
エンドウ箸置	"	圧力鑄込	"	化粧土
扇子箸置	"	たたら	"	液体顔料
亀甲箸置	"	"	"	"
コブシ箸置	"	手ひねり	"	下絵

3.2.1 タンポポ弁当箱揃（写真1）

形状は基本的なワッパ形とし、春一番に咲くタンポポの種が風に吹かれ飛ぶ情景を描いた。若者や子供が好むピラフ、グラタン、オムライスなどを洋風弁当にして意外性を楽しむ。茶器は洋風弁当に合わせ、ハンドル付きのティーポットを組み合わせた。エンドウ形箸置は実をハート形に穴をあけ、軽やかさを出した。また、スプン

レストにも使用できるようサイズを少し大きくした。蓋は黒い漆塗りの木製にして保温性や積み重ねを考慮した。



写真1 タンポポ弁当箱揃

3.2.2 シデコブシ弁当箱揃（写真2）

形状は伝統的な亀甲形とし、誕生日や記念日などの祝いごとに使用する。絵柄は瀬戸の山野に自生するシデコブシの花を表面に描いてあり、ちらし寿司や赤飯、五目御飯等を楽しむ。

3.2.3 菖蒲弁当箱揃（写真3）

形状は優しさのあるまゆ形とし、菖蒲と兜を描いた。赤飯やちらし寿司、五目御飯を入れて五月の節句を楽しむ。また、子供が好むピラフやチャーハン、オムライスなど、洋風の弁当も楽しめる。鯉のぼり形の箸置と汽車土瓶形茶器を組み合わせた。



写真2 シデコブシ弁当箱揃



写真3 菖蒲弁当箱揃

3.2.4 朝顔弁当箱揃（写真4）

形状は日本的な扇子形とし、涼しげな朝顔の絵柄をあ

しらった。弁当のほか、冷麺やざるそば等にも用いることができ、この場合は茶器をそばつゆ入れとして使用する。箸置は朝顔の花をかたどった。



写真4 朝顔弁当箱揃

3.2.5 露草弁当箱揃(写真5)

扇子形の形状に可憐な露草の絵柄をあしらった弁当箱で、うなぎ形箸置をセットにしてうなぎ弁当を楽しむ。土用の頃の暑さに対し、涼しさを演出する。

3.2.6 弁当箱の蓋(写真1~6)

蓋は弁当の使用目的に合った機能が必要になるが、今回は家庭内で弁当を楽しむことを目的にしているため、上から乗せる形状とし、磁器製と木製の二種を作成した。磁器製の蓋は、自由な形状に成形ができ、清潔感があり、表面も硬く傷つきにくい、加飾技法も多彩である。木製の蓋は磁器製と比べると軽くて保温性が良いことや、表面が柔らかく滑りにくいいため、積み重ねが良好である。



写真5 露草弁当箱揃

表2 試作品の寸法 (単位: mm)

品名	ヨコ	タテ	高さ	深さ
亀甲形弁当箱	195	137	52	42
繭形弁当箱	193	105	52	42
わっぱ形弁当箱	194	124	52	42
扇形弁当箱	214	117	52	42

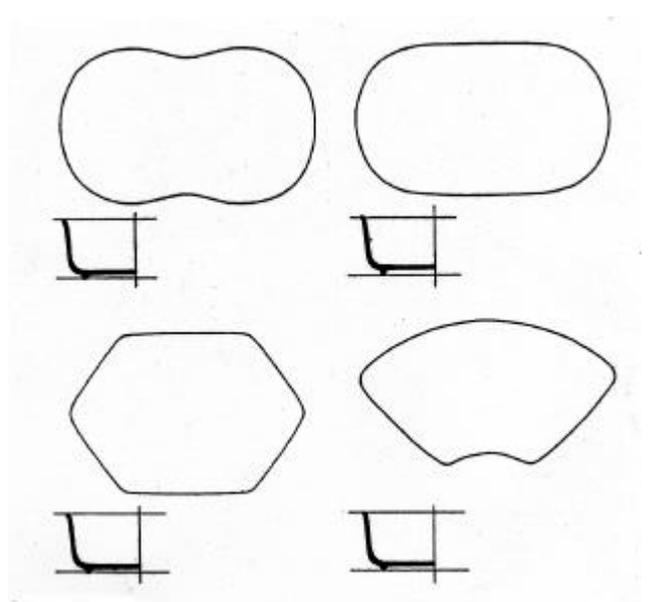


図1 弁当箱の形状と断面図

4. 組み合わせる小物

4.1 茶器・ポット(写真1~6)

旅行途中の車で駅弁を買い、小さな土瓶から蓋を使って一口ずつ飲む。楽しい気持ちを食卓に持ち込んだもので、小さい土瓶と、蓋を小さなカップにしてお茶を飲むことで気分を楽しくする。形状は汽車土瓶のイメージを損なわないように亀甲形と、新しさを付け加えた丸形を作成した。取っ手はハンドルと土瓶臺を付けたものを作り、胴体が同形でも異なった感覚で使用できるようにした(茶器、ポット、汁注ぎ)。



写真6 朝顔弁当箱揃

4.2 箸置

食卓用品としては小品であるが、瀬戸産地をイメージするノベルティ的要素が強く、楽しい雰囲気を作り出す効果的な小道具である。季節を感じさせる草花や弁当箱の形状に合わせてデザインした。

4.2.1 エンドウ箸置(写真1、7)

若者や子供が好むピラフやチャーハンを弁当として

楽しむ時の箸置（スプーン）として作ってみた。料理の
中に入っているグリーンピースを題材とした。



写真7 エンドウ・朝顔・鯉のぼり箸置

4.2.2 シデコブシ箸置（写真2、8）

早春の瀬戸の里山に咲くシデコブシの花を手びねり
で表現した。



写真8 シデコブシ・うなぎ箸置

4.2.3 鯉のぼり箸置(写真3、7)

弁当箱の兜と菖蒲の絵柄に合せ、風に泳ぐ鯉のぼりを
中空の形で、風が吹き抜ける様を表現した。

4.2.4 朝顔箸置（写真6、7）

真夏の暑い時、浴衣を着てうちわであおぎつつ、縁台
で冷たい冷や麦を食べる情景を感じながら、朝顔の箸置
を作った。

4.2.5 うなぎ箸置（写真5、8）

うなぎをテーマにした食器はあまり見掛けないが、土

用丑という歳時記を表現するため、うなぎ自体の愛嬌を
活かし、箸置きとしてデザインした。

4.2.6 扇子形・亀形・亀甲形箸置（写真9）

扇子形と亀甲形の弁当箱に合せて作ったもので、扇子
形は折り目の楽しさを表現し、亀甲形はシンプルさを意
図してデザインした。

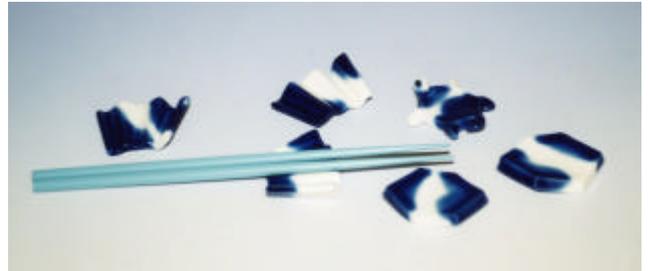


写真9 扇子形・亀形・亀甲形箸置

6.ま と め

現在、消費者が所有する食器は充実した状態にあり、
さらに買いたい器は「こだわりのある食器」といわれて
いる。そこで、今回は和食器の新しい方向として、歳時
記などの家庭内行事に使用して、以外性を楽しむホーム
パーティに使用できる器をデザインした。

試作した弁当箱、茶器、箸置はセットとしては最小の
単位であるが、弁当箱の形状に合わせ、大小の皿や小鉢、
刺身皿などを加え、より充実したセットにすることがで
きる。

また、各家庭で使用している「ふだん使い」のものと
組み合わせて楽しむことができる。更に、器の表面模様
はタンポポ、シデコブシ、つゆ草、朝顔、五月節句と歳
時記や季節の自然を描いたが、正月や誕生日、クリスマ
スなど、より細かな目的に合わせた模様をデザインして
多品種化を図り、より個性ある差別化商品を展開するこ
とができる。